

令和3年度第2回庄原市特別支援教育研修会

令和4年1月21日（金） 各校でのオンライン研修

特別支援教育の校内支援体制の中核を担う、特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任の資質向上を図るとともに、校内支援体制の充実及び特別支援教育を視点を据えた授業改善を推進することを目的に、研修会をオンラインで行いました。

【講話・交流】「各校における個に応じた手立てについて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子



Zoomによるグループ協議

- ◆ 通常学級における特別な指導の在り方について講話を行った。また、各校における「個に応じた手立てについて」内容・状況及び課題ととらえていること等について交流を行った。
- ・ 「正しい理解」「指導の工夫」「校内体制の整備」「家庭との連携」「学校間の連携による一貫した支援」の5つのポイントに沿って適切な支援を行うことが大切である。

【交流内容より】

内容・状況（工夫していること）

- 児童の「できたこと」を掲示するなどして残し、自信ややる気につなげている。
- 個の特性に合わせた手立てを行っている。（音が遮断できるヘッドホンの活用、手順を細かく書いて提示、学習のパターン化やルーティーン化、視覚支援、ゲーム性のある活動）

課題ととらえていること（悩み）

- 学習への意欲のもたせ方。生活習慣の定着。保護者連携の仕方。

【講話】「通常の学級における特別な支援を要する児童生徒への手立ての在り方

～特別支援教育におけるデジタル機器の活用～

広島県立教育センター 指導主事 松本 和裕



- ◆ 特別支援教育の理念や児童生徒の困難さの状況に対する指導の工夫、特別支援教育におけるICTの活用についての講話
- ・ 全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが大切である。

【参加者の振り返りより】

- ICTを使用しての支援には様々なものがあるとわかったので、参考にしたいと思います。児童のつまずきの要因をしっかりと考え、支援の仕方を考えていくことが大切だと改めて感じました。
- 通常学級における支援を必要とする児童について、ユニバーサルデザインの観点を生かしてどの児童にもより良い支援を見つけていきたいです。
- 「個に応じた手立て」について交流したポイントや、デジタル機器を活用した指導で参考になるサイトなどを全職員で共有していきたいと思いました。また、氷山モデルでつまずきの背景を考えることを改めて意識していきたいと感じました。
- 見えている姿（困っている状態）に対して、隠れている要因（困難さ等）について、全職員で共有し考える研修もいいのではないかと思います。また、特別支援教育教材ポータルサイトの実践事例に、たくさん教材例があり、ぜひ、職員に伝えようと思いました。